

## さかべふゆまつりほぞんかい 坂部冬祭り保存会 (天龍村)



連絡先 〒39911202  
下伊那郡天龍村坂部  
TEL 0901263216725  
代表者 関福盛(せきよしもり)

定期公演日 ◆ 毎年1月4日18時～1月5日12時頃  
定期公演の場所 ◆ 大王社、大森山諏訪社  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
練習時期 ◆ 12月の土曜日3回程度(19時～)  
練習内容 ◆ ①舞い(本舞い)を実際に舞って確認する  
②たいきり面：舞いを実際に舞って確認する  
③「歌ぐら」を実際に歌って確認する  
その他 ◆ JR飯田線平岡駅、仮眠場所、駐車場あり(40台)  
「神子」として生涯を神様に仕える事を約束する

【芸能の由来】 地区に伝わる「熊谷家伝記」によると、三代目熊谷家当主熊谷直吉は、正長元年(1428年)館を現在地に移しました。移転の夜、直吉は諏訪光盛と木曾義仲を名乗る老翁が能を舞う夢を見ました。この夢を船田弥右衛門に夢占いをさせたところ、「今より神楽を始めれば子孫倍繁昌して当郷長く成就すべし」とのこと、神楽を始めたのが由来とされています。

【見どころ】 毎年1月4日18時頃、火王社を神輿、太鼓、笛、奴のお練りが大森山に着くと大きな庭火に点火されます。伊勢音頭、頼人踊りが始まり、「大森山諏訪社古列式典」が始まります。

①抜式②御屏③浦安の舞④座面⑤注連引⑥御供渡し⑦大庭酒(御神酒、食事披露)⑧順の舞⑨申し上げ⑩釜洗い⑪湯祓⑫花の舞(子供が4人で舞う。庭にいる観客も緒になつて「かやせかやせ清めてかやせ」と歌う姿は圧巻である)⑬大神宮御湯⑭火の神の御湯立⑮神楽神の湯立⑯津島神御湯立⑰切替⑱湯祓⑲東方浅間神の湯立⑳諏訪神の湯立㉑たいきり面(別名道あけ様と呼ばれ、1月5日朝4時事大きな斧を持って登場し、松明を切つて新年の道を開いてくれる壮大な舞である。カメラマンが撮りたい場面㉒獅子舞㉓鬼神面㉔天公鬼面㉕青公鬼面㉖水の王神㉗火の王神㉘翁の面㉙明女郎面㉚海道下り㉛魚釣り㉜八坂神の御湯立と舞千立㉝神楽神の御湯立と舞四立㉞面形送り㉟止湯㊱火伏せ

【保存会の雰囲気や練習の内容】 「眠い、寒い、煙い」の延々18時間に及ぶ大祭です。まずは、実際に見て感じてください。冬祭りは1月3日の準備から始まり、1月6日の片付けまで続きます。坂部から外に出ている人もこの冬祭りには帰って来ます。それは、自分の原点がそこにあるからです。お祭りをやらないと1年が始まらない。お祭りに参加できなかった年はずっと変な感じがする。そんな思いが心を動かします。自分探しをしていて、初めて坂部冬祭りに来て、自分を見つけた人は、もう10年以上、毎年冬祭りに来てくれます。

## 「刊行にあたって」

私たち伊那谷民俗芸能団体連絡協議会は、昭和62年(1987年)から活動を開始し、平成29年(2017年)現在で60団体が加盟している南信州14市町村の民俗芸能団体の連絡協議会です。

南信州地域には多くの民俗芸能が継承されています。しかし、昨今の少子高齢化の影響もあり、私たち協議会加盟会員の中でも後継者の不足により保存・継承が困難になりつつある団体が見られるようになってきています。

そこで、当地域の民俗芸能の紹介をし、多くの皆様に関心を持っていただき、活動に緒に取組んでいただくことを目的に本情報誌を刊行致しました。

ご利用いただけますようよろしくお願い致します。

伊那谷民俗芸能団体連絡協議会

会長 片桐 登

# 南信州民俗芸能誌【上巻】

羽場獅子舞保存会	2
寺所獅子舞保存会	2
山本南平獅子舞保存会	3
上殿岡獅子舞保存会	3
下殿岡獅子舞保存会	4
切石獅子舞保存会	4
上茶屋獅子舞保存会	5
上村中郷獅子舞保存会	5
上山獅子舞保存会	6
一色獅子舞保存会	6
名古熊獅子舞保存会	7
下山獅子舞保存会	7
今田人形座	8
黒田人形保存会	8
松流囃子保存会	9

久盛芸能保存会	9
七久里神社裸祭り	10
吉田区伝統芸能保存会	10
まつり創造集団結衆大地	11
新野高原盆踊りの会	11
新野雪祭り保存会	12
早稲田人形保存会	12
木賊獅子保存会	13
中関義士踊り保存会	13
下條村山田河内神明社お囃子獅子保存会	14
大河内鹿追い行事	14
大河内池大神社例祭	15
掛踊り	15
坂部冬祭り保存会	16
大鹿歌舞伎保存会	16

## おおしかかぶきほぞんかい 大鹿歌舞伎保存会 (大鹿村)



連絡先 〒39913502  
大鹿村大河原354 大鹿村役場  
TEL 026513912001  
代表者 柳島貞康(やなぎしまさだやす)

定期公演日 ◆ 毎年5月3日、10月第3日曜日  
定期公演の場所 ◆ 春：大磧神社舞台  
秋：市場神社舞台  
定期公演以外の公演 ◆ 大鹿中学歌舞伎公演、9月下旬、大鹿中学体育館  
歌舞伎教室発表会 毎年3月、大鹿村公民館鹿塩地区館  
練習時期 ◆ 公演2ヶ月前より週1回  
練習内容 ◆ 歌舞伎の通し稽古  
その他 ◆ JR飯田線伊那大島駅、最寄バス停：春：大河原  
秋：鹿塩 駐車場あり(200台)  
稽古等に通うことができる方

【芸能の由来】 江戸初期(1600年頃)におこった歌舞伎は、元禄期(1688)1704にほぼ現代の形に完成し、大都市の芝居小屋を拠点に庶民の娯楽として発展していきました。と同時に旅回りの小一座も多く発生し、全国各地に渡り歌舞伎興行が盛んに行われました。この一座の手ほどきにより、素人による地芝居が各地で誕生しましたが、時の幕府はその隆盛ぶりに懸念を持ち、これを御法度として禁じました。しかし、後に奉納芸能として許され神社仏閣の境内に舞台が建立され、様々な形態で昭和期まで継承されています。大鹿歌舞伎の発生・伝承も同様な経緯とされています。

【見どころ】 大鹿歌舞伎愛好会(保存会)の中で直截、歌舞伎上演に携わるグループにより公演数か月前に上演外題が決められ約2ヶ月前より通し稽古が始まります。春秋の定期公演では通常二幕が上演され、幕末から明治にかけて建立された回り舞台上演されます。客席は境内にゴザが敷かれ、その上に観客は座つて歌舞伎を見ます。飲食を伴う昔ながらの観劇スタイルは今も変わらず、舞台の役者と観客が一つとなる地芝居の楽しさを味わうことができます。大鹿歌舞伎には他にはない独特の演出や型、外題が伝承されており、地芝居の原形ともいわれています。

【保存会の雰囲気や練習の内容】 大鹿歌舞伎保存会の中に、直接歌舞伎上演に携わる大鹿歌舞伎愛好会というグループがあります。愛好会は40人ほどが在籍しており、役者をはじめ太夫や着付、大道具といったスタッフも含まれます。年代も様々で、高校生からこの道70年の大ベテランまで、みんな一つになって大鹿歌舞伎に取り組んでいます。春秋の定期公演には1000人を超えるお客様が詰めかけます。舞台は大変盛り上がり、おひねりが雪のように舞台一面真っ白に降り積もります。舞台と客席が一体となる醍醐味をぜひ味わってください。大鹿歌舞伎は女性も役者として舞台上立つことができます。週一回の稽古に通うことができる方なら、どなたも役者になれます。ぜひ、あなたも大鹿歌舞伎の舞台上立つてみませんか。

編集 伊那谷民俗芸能団体連絡協議会

飯田市追手町2丁目678番地

南信州広域連合内

電話 026515317100

はばししまいほぞんかい  
**羽場獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510063  
飯田市羽場町2丁目14-11  
TEL 026512419068  
代表者 吉川勝美(よしかわかづみ)

定期公演日 ◆ 毎年1月1日元山白山神社元旦祭  
4月13日祈念祭本祭り  
地区内巡行4月第2土日  
定期公演の場所 ◆ 元白山神社・羽場地区  
定期公演以外の公演 ◆ 羽場まちづくり委員会新年会祝舞(1月)  
獅子舞フェスティバル10月第3日曜日(飯田市街地)  
羽場文化祭オーピング10月(公民館)  
羽場丸山地区成人式祝舞(羽場・丸山公民館)  
行政団体及び個人・企業等の要請により祝舞の演奏を行う。

練習時期 ◆ 毎月第2、第4金曜日19時から  
練習内容 ◆ 一通りの舞と、パトゴの専門の練習  
その他 ◆ JR飯田線飯田駅、駐車場あり(20台)  
地区外者は入会できない

**【芸能の由来】** 獅子舞の創始は明治41年、今宮郊戸神社から元山白山神社への大遷宮祭(氏子がえ)に獅子舞を奉納した事が起源です。以来今日まで伝え継がれ、平成28年に108年目を迎えました。

**【見どころ】** 5部構成 ●起こしの舞 ●しんきんの舞 ●さいとりの舞 ●大門口の舞 ●寝かしの舞  
宇天王が寝ている獅子を起こす。寝起きてご機嫌が悪い獅子をなだめ鎮める。しんきん、さいとり、大門口の舞。  
疲れた獅子を宇天王が寝かしつけます。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 練習：毎月2回。  
第2、第4金曜日19時から行っています。こども育成部、研修部合同練習で、毎月30名以上参加しています。  
地域の行事等(公民館やまちづくり委員会等が主催)に招待されて演舞を行っています。最近では、小学校からも呼ばれ、地域に溶け込んだ幅広い活動をしています。そのため、子供育成部への入会希望が多くあります。  
子供育成部員が増えたことにより、その保護者とのつながりで、女性の会員が増えています。

やまもとみなみだいらししまいほぞんかい  
**山本南平獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510244  
飯田市山本5443-11  
TEL 026512515210  
代表者 小野喜興(おののきよ)

定期公演日 ◆ 毎年4月15日  
定期公演の場所 ◆ 七久里神社春季例大祭(七久里神社)  
定期公演以外の公演 ◆ 7月15日 山本保育園祭り(山本保育園)  
7月24日 山本地区夏祭り(杵原広場)  
8月28日 長野県柔道整復師会交流会(昼神温泉)  
練習時期 ◆ 所望(出演日)の1日～2日  
練習内容 ◆ 人集めを兼ね、総合練習(約1時間)  
その他 ◆ 最寄バス停 山本支所前  
駐車場あり(20台)  
現在は地区内の方のみの参加としています

**【芸能の由来】** 元龜2年(1571年)悪病が猛威を振るっていた南平地区に武田信玄より1対の獅子頭が寄贈されたのが始まりとされています。

**【見どころ】** 三部構成で(1)幌の舞(2)鈴の舞(3)嵐の舞の順で舞います。雌獅子の三頭舞で優雅の中に「ひよっこ」の所作が人気です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 飯田お練り祭り前は1年間毎月第3日曜日を練習日としていました。  
それ以外は出演予定日の2～3日前に練習をします。南平地区の戸数が少なく特に若い方の会員の入会をお待ちしています。

てらどこししまいほぞんかい  
**寺所獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510825  
飯田市松尾城4012-11  
松尾自治振興センター  
TEL 026512210091

定期公演日 ◆ 2年に1度八幡宮祭り4月第2週(土)  
南信州獅子舞フェスティバル 毎年  
定期公演の場所 ◆ 本祭は区内巡回  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
練習時期 ◆ 毎月16日19時30分  
練習内容 ◆ 獅子舞、お囃子の習熟  
その他 ◆ 当区民全員が当獅子舞保存会員の規約が有る

**【芸能の由来】** 座光寺より当地へ養子とられた方が伝承したと伝えられています。

**【見どころ】** 寺所の獅子舞は暴れる獅子を鎮める先導役である天狗と、胴花尾花で飾られた巨大な胴幕屋台を曳いた獅子が屋台の中に太鼓・囃子笛が入って演奏しながら練り歩く獅子舞で、無病息災・五穀豊穡・家内安全・厄払いの獅子舞として、100数十年の歴史ある舞楽系獅子舞です。  
獅子舞と共にお囃子があります。「松林囃子」と称され、笛・太鼓・三味線・鼓・大皮で構成された獅子舞の曲以外に「戻り箆」「浮舟」「羽衣」「大拍子」「大間」「宮神楽」「胡蝶」「三下がり」「さぎ娘」があり、いずれもひなびた優雅な調子で演奏するのが特色です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 寺所獅子舞保存会は月の16日の宵、獅子の舞、囃子の調べの練習をしています。その後技の向上を話し合い、ときには美酒を酌み交わしながら親睦を深め伝統の祭りを支える地域愛の情熱のものと世代をこえた仲間作りに取り組んでいます。  
伝統芸能は後継者作りも悩みの一つですが、当地区は幸いにも若い皆さんが新しく居住される環境の中、地域に少しでも早く溶け込むため参加される若者たちが活動の担い手となり活動を盛り上げるとい喜ばしい状況です。  
その中には父親に伴われた小学生がお囃子を覚え、飯田お練りまつりでは絞め太鼓の立派な打ち手として授業では習わない和楽器の雅な響きを奏で大勢の人々たちを魅了しました。

かみとのおかししまいほぞんかい  
**上殿岡獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510034  
飯田市追手町21678  
飯田合同庁舎5階  
TEL 026515317100  
伊那谷民俗芸能団体連絡協議会事務局

定期公演日 ◆ 春季祭典：毎年4月第1土日曜日  
定期公演の場所 ◆ 上殿岡神明神社  
定期公演以外の公演 ◆ 地区内訪問舞及び神前奉納舞  
練習時期 ◆ 定期公演の1週間前  
練習内容 ◆ 舞と笛の練習  
その他 ◆ 駐車場あり(10台)

**【芸能の由来】** 高森町大島山瑠璃寺800余年の歴史を継ぐものでその後継者の一人であった後藤伊作氏が明治27年に上殿岡の後藤家に婿養子に入り明治30年頃から本格的な獅子舞指導に当たった。近郷近在の獅子舞はほとんど後藤伊作氏の指導によるもので舞の曲も同じである。

**【見どころ】** 曲は、しんきん、さいとり、大門口、出羽の4曲から構成されている。  
特に、大門口の舞がすばらしい。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 青年団員が中心になります。  
近年は子供(小学生)が大勢参加してくれています。

しもとのおかししまいほぞんかい  
**下殿岡獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510154  
飯田市羽場赤坂648  
TEL 026512516334  
代表者 木下清三(きのしたきよみ)

定期公演日 ◆ 春季祭典 毎年4月の第1土日(本祭、夕祭)  
定期公演の場所 ◆ 下殿岡  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
練習時期 ◆ 定期練習は2カ月に1回土曜日の夜  
練習内容 ◆ 舞の動き、形等を指導者(会員)より見てもらう。それに合わせて笛、大太鼓、小太鼓等の練習も行う。曲に合わせての練習。  
その他 ◆ 駐車場あり(25台)

**芸能の由来**

松川町上片桐の御射山神社直系と伝えられる下殿岡の獅子舞です。  
初代の獅子頭は伊那谷でも最も古く、今から300年以前の物と推定されています。古くから郷土芸能として獅子舞が伝承されてきています。現在2代目の頭(1920年⇨大正9年)を使用しています。

**見どころ**

演舞は道中囃、数之唄、大社囃、宮神楽の4曲があります。ゆつくりと動く数之唄から少し早くなる大社囃。さらにはげしく動く宮神楽と、その舞にも格調高く優雅な舞として、古くから多くの人達に愛されています。又、少し小さな4代目の頭を使い子供獅子を同じ様に2つの屋台で八幡神社まで奉納獅子舞を行っています。

**保存会の雰囲気や練習の内容**

下殿岡保存会は、子供獅子は小学校低学年から中学生位。また大人は80歳代まで年齢に幅のある会です。定期練習は2カ月に一度行っています。夜の練習ですが子供も出席します。始めと終わって帰る時、子供も必ず挨拶をしています。保存会員は郷土芸能の伝承のため、又楽しみながら、舞、笛、大太鼓、小太鼓の練習をしています。女性の会員もいます。舞は大変なので笛、太鼓等をしていきます。親子での会員も数組いて、父と子で同じ獅子舞をする楽しみとなっています。

かみちややししまいほぞんかい  
**上茶屋獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510808  
飯田市鼎上茶屋335312  
TEL 026512319285  
代表者 中島基雄(なかしまもとむ)

定期公演日 ◆ 毎年春季祭典 4月  
定期公演の場所 ◆ 鼎矢高諏訪神社境  
定期公演以外の公演 ◆ 特に決まっていない  
練習時期 ◆ 公演が決定された1週間前位から上茶屋多目的センター2階にて19時～20時30分まで毎夜  
その他 ◆ JR飯田線鼎駅  
地区外者は入会できない

**芸能の由来**

地区内の久米路橋の架け替え工事完成をきっかけに地域おこしを狙い発足しました。会員は40代を中心に20～60代30人位で矢高神社での奉納などの活動をしています。

**見どころ**

上茶屋の黒獅子は、南信州屋台獅子の元祖、八百年以上の歴史を持つ高森町大島山瑠璃寺の舞を直系に受け継ぐ獅子舞です。

**保存会の雰囲気や練習の内容**

練習は公演が決定された1週間前位から上茶屋多目的センター2階にて夜19時～20時30分まで毎夜練習を行ないます。  
最近では、小学生10名ほど舞や笛などを覚えてくれて祭りに参加してくれています。  
練習は大変ですが、公演を行って見物人から「よかったよ!」と言われるのが嬉しいです。また、見られる快感もあります。

きりいししまいほぞんかい  
**切石獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510807  
飯田市鼎切石5089112  
TEL 026512315691  
代表者 島岡幸夫(しまおかゆきお)

定期公演日 ◆ 切石天伯神社春まつり 毎年4月第2週土日  
定期公演の場所 ◆ 切石地区内及び7天伯神社境内  
定期公演以外の公演 ◆ 4月の天伯神社の春季祭典への対応  
元旦祭  
練習時期 ◆ 切石天伯神社境内0時30分より1時間くらい、毎年3月末から4月の祭典日までの2日間  
練習内容 ◆ 切石会館を使用し子供獅子と親獅子が時間差により各曲を繰り返し練習(19時～21時30分頃まで) 子供は小学生より太鼓、笛、舞子  
その他 ◆ JR飯田線切石駅、最寄バス停切石  
仮眠場所、駐車場あり(40台)  
切石区民である事

**芸能の由来**

大正12年4月切石区内の祝事を記念して、切元の壮年団員が舞を披露した。

**見どころ**

舞は本舞と道中舞の2種類があり大小の太鼓と屋台笛による囃子に合せ力強く舞います。本祭り最後を飾る舞込みは縁起が良いと人気です。地区内の獅子舞巡行では赤鬼と青鬼が周囲に愛嬌を振りまきます。2日間6か所の開所では、激しさの中に勇壮さ、そして優雅さも有る獅子舞を披露しています。

**保存会の雰囲気や練習の内容**

毎月第2週金曜日19時より2時間程度承会を開いています。  
年間事業の一環で子ども獅子舞の小学生から親獅子舞の壮年団員が練習します。保存会の役員が舞、笛、太鼓の指導に当たります。  
練習後は全員で(60～80名くらい)懇親会を行い和気藹々の良い一時を過ごす場です。

かみむらなかごうししまいほぞんかい  
**上村中郷獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39911403  
飯田市上村75412  
TEL 026013612211  
代表者 上村自治振興センター

定期公演日 ◆ 要望があれば上演  
平成28年度は飯田お練り祭り(3月27日)  
上村程野御柱祭 4月30日  
定期公演の場所 ◆ 要望のあった場合  
定期公演以外の公演 ◆ 要望のあった場合  
練習時期 ◆ 日時は決まっておりません。その都度決めて行なっております。  
練習内容 ◆ 今のところ、舞の練習が主になっております  
その他 ◆ 上村中郷に住んでいる方

**芸能の由来**

百獣の王と言われる獅子の大神楽舞を氏神様に奉納して、その年の安泰を祈願したことにより始まったと言われ伝えられております。

**見どころ**

練り舞は、雌、雄の獅子が舞い大神楽の舞は振り袖姿の雌獅子と後取りチヨウケ役として演じます。見どころは大神楽の舞いです。

**保存会の雰囲気や練習の内容**

古くから伝わっている数少ない芸能文化です。会員一同一生懸命取り組んでおります。やりがいのある伝統芸能と思っております。

かみやまししまいほぞんかい  
**上山獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510034  
飯田市追手町21678  
飯田合同庁舎5階  
TEL 026515317100  
伊那谷民俗芸能団体連絡協議会事務局

定期公演日 ◆ 矢高諏訪神社春季祭典毎年4月第2土・日  
定期公演の場所 ◆ 矢高諏訪神社及び上山区内  
定期公演以外の公演 ◆ 南信州獅子舞フェスティバル参加  
その他

練習時期 ◆ 毎月第2金、偶数月第2土(はやしのみ)  
練習内容 ◆ 舞い手、はやしを指導者から伝授  
その他 ◆ JR飯田線鼎駅、最寄バス停 上山、支所前等  
上山区在住者(原則として)

**【芸能の由来】**

上山獅子舞は昭和9年に上山青年(鬼齒青年)により始められました。獅子舞は高森町大島山(瑠璃寺)系列で、名古屋より師匠を迎え伝授されたものと伝えられます。以来80年の間、矢高神社春季祭典に、五穀豊穡を願うと共に地域や家内安全を祈願し獅子舞を奉納してきました。また、青年会員の減少にともない昭和43年に上山獅子舞保存会が発足し、主に壮年団員及び壮年退団者が実質的な獅子舞の伝承を行っており、近年では子供達とも囃子の一員として継承しています。

**【見どころ】**

上山獅子舞は、道中舞の八曲と本舞の一曲で構成されています。獅子頭の動作は蝶蝶と戯れる静と動の動きで表現され、区内の家々を巡回する時は、本舞の最後に人家の玄関に飛び込むのが特徴でもあり、特に新築や出産などの慶事がある家から所望がある場合は、心を込めた祝いの舞い込みで、厄を振り払い福を呼び込むとして熱烈歓迎されています。雌獅子ならではの優雅さと、獅子本来の荒々しさを併せ持ち、大型獅子頭と長尺の白い幌が風を切る勇壮な舞姿が見どころです。

なごくまししまいほぞんかい  
**名古屋獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510804  
飯田市鼎名古屋136811  
TEL 026512212772

代表者 常盤鉄男(ときわてつお)

定期公演日 ◆ 毎年春先4月第2土・日曜日本祭参加  
定期公演の場所 ◆ 名古屋区内  
定期公演以外の公演 ◆ 南信州獅子舞フェスティバル 旧飯田市内  
今年度は10月16日参加

練習時期 ◆ 4月の獅子祭前1ヶ月間練習を行う  
練習内容 ◆ 毎月第1土曜日と第3土曜日に子供獅子とお囃子を練習しています。

その他 ◆ 仮眠場所、駐車場あり(50台)

**【芸能の由来】**

名古屋の獅子舞は高森町大島山瑠璃寺が発祥の地とされ、明治時代から伝承されてきました。また、伝承される中で独自の舞を築き上げ「本舞」「道中舞」「帰り舞」の3通りの舞型があります。獅子舞は古来より邪気を祓い、福を呼び込む縁起物といわれています。

**【見どころ】**

名古屋区内の各家を回り、邪気を祓い、皆様方の健康で幸福が訪れますようお願いながら獅子が舞込みます。大きな獅子頭、色とりどりの幌幕や魔よけの獅子花、大きな胴体からお囃子が響き、頭を振りながら勇壮に練り歩きます。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】**

若者が先に立って獅子舞やお囃子などがんばっています。また子供獅子や笛、太鼓などの練習も盛んに活動しています。名古屋獅子舞は、本舞と道中囃子、帰り囃子の3種類で構成されています。明治時代からの歴史ある獅子舞です。

いっしきししまいほぞんかい  
**一色獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510805  
飯田市鼎色11  
TEL 026512411674  
北原治男(きたはらのお)

定期公演日 ◆ 毎年4月の第2土曜日・日曜日  
定期公演の場所 ◆ 一色神社  
定期公演以外の公演 ◆ 南信州獅子舞フェスティバル  
主に10月

練習時期 ◆ 毎月第3金曜日、神社祭典1週間前  
練習内容 ◆ 笛・舞・太鼓・傘踊りの練習  
その他 ◆ JR飯田線切石駅、最寄バス停 一色運動公園通り  
仮眠場所、駐車場あり

**【芸能の由来】**

江戸時代竹カゴで作った大きな獅子頭で天下泰平五穀豊穡を祈願して、一色神社に奉納されたと伝えられています。現在の舞は、大島山瑠璃寺が源流で、大島山から上殿岡へ婿養子にいられた後藤伊作氏によって、昭和9年に当時の青年会員に伝授され、一色神社に奉納された舞です。

**【見どころ】**

舞の曲はシンキン、サイトリ、大門口があり道中ばやしも数え歌、仙境、祇園の3曲があります。特に、大門口の舞は優雅な中にも勇壮さのある舞です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】**

月1回第3金曜日に定期練習を行っています。また、子ども達にも獅子舞と傘踊りの指導を行っています。伝統芸能である獅子舞を通じ地域の仲間との絆が強まり、地区の皆さんにも喜んで頂いています。

しもやまししまいほぞんかい  
**下山獅子舞保存会**  
(飯田市)



連絡先 〒39510803  
飯田市鼎下山35312  
TEL 026512411932

代表者 木下正博(きのしたまさひろ)

定期公演日 ◆ 毎年4月15日に近い土、日曜日  
定期公演の場所 ◆ 下山区内、矢高神社境内  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない

練習時期 ◆ 毎月4日(土日の場合平日へ)  
練習内容 ◆ 毎回本番を想定し舞、笛、太鼓の練習

**【芸能の由来】**

詳細は定かではありませんが、地区内の家内安全等を願って、矢高神社へ奉納した事が由来と思われます。または、他地区で行われていた獅子舞を地域内へ広めたとも考えられます。

**【見どころ】**

普段は矢高諏訪神社への奉納の為の活動ですが、各種イベント参加時には、親・若の同時舞が皆様の感動を感じられる場面になると思われます。ぜひご覧ください。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】**

年齢を越えての地域活動に興味のある方の参加の一役をになえればと考えます。子ども獅子の取り組みは、29年目を迎えました。小学生の頃から参加した子供達が大人になってから又参加できる点等、すばらしい取組みと考えております。ぜひともご参加ください。

## いまだにんぎょうざ 今田人形座 (飯田市)



連絡先 〒39512221  
飯田市龍江4517  
TEL 026512713004  
代表者 澤柳大門(さわやなぎ たもん)

定期公演日 ◆ いまだ人形劇フェスタ(8月上旬)  
大宮八幡宮秋季奉納(10月第3土・日曜日)  
伊那人形芝居(11月上・中旬)  
定期公演の場所 ◆ 今田人形の館、黒田人形伝承館  
定期公演以外の公演 ◆ 公演依頼があり、座員の都合がつけば、それに沿うようにしています。  
よく10回ぐらいます。場所、上演日は未定です。  
練習時期 ◆ 毎週日曜日19時から(年末は休む時があります)  
練習内容 ◆ 定期公演、依頼公演、技量向上の練習になります  
その他 ◆ JR飯田線天竜峡駅  
駐車場あり(30台)

【芸能の由来】 今田村の氏神である大宮八幡社の祭りを賑やかにしようとする人形浄瑠璃を取り入れたと村中の家からお金を集めて人形道具等を買って求め、五穀豊穡を願って自分たちで操って奉納公演を始めたことが由来です。

【見どころ】 今田人形は義太夫節にのって芝居をする人形浄瑠璃です。物語を語る太夫、曲を弾く三味線、人形遣いは一体の人形を三人で遣う三業体の芸になります。主遣いは左手で頭(カシラ)を右手で人形の右手を操作します。左遣いは右手で人形の左手を操作、足遣いは両手で人形の足を操作します。国の選択無形民俗文化財、飯田市の無形民俗文化財に指定されています。

【保存会の雰囲気や練習の内容】 座員20〜70代まで20名(内女性5名)ほどでこの人形浄瑠璃に取り組んでいます。

人形、大夫、三味線の部門別に年2〜3回、プロの方々より技術指導をいただき、技量向上に努めています。また、今田人形座を後押し頂いている保存会の組織があり、継承していく上で大きな力を頂いています。入会については、地区内外を問わず入会可能ですので、希望される方は連絡を待っています。後継者不足の問題を抱えながら多くの恩恵に感謝しつつこの伝統芸能を継承してきているところです。

## しょうりゅうばやしほぞんかい 松流囃子保存会 (飯田市)



連絡先 〒39510821  
飯田市松尾新井6127  
TEL 026512310856  
代表者 飯野城敬(いいのくに たか)

定期公演日 ◆ 特に決まっていなくても、年1回公演  
定期公演の場所 ◆ 弁天厳島神社  
練習時期 ◆ 毎月第4土曜日19時から  
練習内容 ◆ 残月、松風、玉神頭、大拍子。演奏し、上手く合わない曲をやり直したりする。

【芸能の由来】 はっきりとした記録はないが、明治の始め頃が始まりではないかと言われており、約100年以上の歴史があるという事になります。松尾の上溝・久井にもお囃子の曲目と同じものがありますが、節まわしが微妙に違っていたりしておもしろいです。

古い道具には年号が炭で書いてありますが明和(1764年〜1771年)なら250年前、昭和と読めば90年前となります。昭和天皇即位記念(1926年)の写真が残っており、その写真には囃屋台もあり、盛んであったことが見受けられます。

戦争中に一度途絶えた後、昭和52年当時の壮年会の皆さんの努力により復活して今日に至っております。

【見どころ】 お囃子の曲目は9曲〜12曲。残月、松風、玉神頭、大拍子、浪の上、緑、瀧姫、さぎ娘、宮神楽、大間、唐楽、数え歌とありますが、今は残月、松風、玉神頭、大拍子を主に演奏しています。

【保存会の雰囲気や練習の内容】 練習の後、お茶を飲んだり、菓子を食べながら談笑、暑気払い等交流の機会を設けています。会員の高齢化と新しく入ってくる人が少ないため会員の減員が避けられませんが、昭和52年の時は壮年会全員を笛、太鼓、鼓、三味線を全員割りあてて方法をとりましたが、様々な理由でやめてしまった人もいました。子供への入会の案もありましたが、学習塾やスポーツクラブ等で忙しく芸能への興味は持てない様子です。他地区では小学生の入会をした話等聞きまですので、それらを見聞きし、当会も続いて来た伝統の芸能をなくす訳にはありません。

## くろだにんぎょうほぞんかい 黒田人形保存会 (飯田市)



連絡先 〒39510002  
飯田市上郷飯沼309219  
TEL 026512417744  
代表者 高田正男(たかだ まさお)

定期公演日 ◆ 下黒田神社奉納上演  
定期公演の場所 ◆ 於黒田人形専用舞台(国重要文化財)  
いまだ人形劇フェスタ上演  
於黒田人形浄瑠璃伝承館  
定期公演以外の公演 ◆ 人形フェスタ(夏)  
伊那谷人形浄瑠璃四座の発表会(秋)  
練習時期 ◆ 毎週土曜日夜(盆と正月は休む)  
練習内容 ◆ 人形を動かす技の初歩から三人遣いの上演まで、又、三番叟の笛吹きや鼓の打ち方等、三味線の弾き方  
その他 ◆ JR飯田線桜町駅、伊那上郷駅、最寄バス停 黒田  
駐車場あり(30台)

【芸能の由来】 元禄時代に部落の若者・壮年たちへ村の寺の住職僧侶が教えて覚え、上演できるようになり人数も増え、後に講もつくり専用舞台も建造しました。更に天明、寛政、天保年間に淡路より何人もの師匠が黒田に定住して本格的になり、成熟して現在も上演を続けています。

【見どころ】 昔は、黒田地区の若者が有志同志で上演していました。現在は、地区は他の町村でも有志の人に入って頂いて人形芝居の上演を稽古し舞台上演につとめています。

観客から「人形が生きているように見える」と言われる芸が伝承されており三人遣いの人形と語る太夫・伴奏の三味線が三位一体で、素晴らしい。

【保存会の雰囲気や練習の内容】 淡路人形や文楽と同じ人形浄瑠璃芝居であり、浄瑠璃を語る「太夫」、その伴奏の「三味線弾き」、もちろんそれに人形を動かす「人形遣い」の三種の役者が一体となって芝居を行います。黒田の芸は独特のものがあり芸は淡路の原形を継いでおり、高度であり、国の文化財に指定されています。

私共はプロ集団ではなく、サラリーマン・主婦・農業者・定年過ぎの者、高校生等の有志同志が語り、三味線、人形遣いの先輩達から教えてもらい舞台上に立っています。どうぞ気楽にお入りください。

## きゅうせいげいのうほぞんかい 久盛芸能保存会 (飯田市)



連絡先 〒39510816  
飯田市松尾久井2538  
TEL 026512213328  
代表者 宮下吉彰(みやした よしあき)

定期公演日 ◆ 囃子の定期発表の場は元旦の区新年祝賀式、7月の区納涼大会(元旦の鳩ヶ嶺八幡宮前奉納演奏)  
定期公演の場所 ◆ 区集会所、区公園  
定期公演以外の公演 ◆ 松尾地区郷土芸能まつり  
練習時期 ◆ 不定期 6月と12月に計画  
練習内容 ◆ 演奏曲目(大旨3曲)の繰り返し練習  
その他 ◆ JR飯田線伊那八幡駅、最寄バス停 ぶくろう薬局前  
規約上区民が会員

【芸能の由来】 歴史としては大正末期から昭和初期に現在の形になったと言われています。青年団による継承が途切れていましたが、昭和40年代中頃から現在の組織により活動が再開されました。

【見どころ】 囃子と屋台が一体となった形が本来の姿です。屋台は江戸末期から明治初期の頃のもので、久盛(きゅうせい)という曲は久井区独自のものです(久盛は久井区の源氏名)、小学生女子児童が裁つ着けタスキ掛けの衣装で、この曲に合わせて踊るのが見どころです。

【保存会の雰囲気や練習の内容】 会員の親睦を深めるために旅行(先進地視察等。日帰り・泊二日)なども行います。若い人たちも参加しており、活動に取り組んでくれています。

若い人たちも参加しており、活動に取り組んでくれています。

ななくりじんじゃはだかまつり  
七久里神社裸祭り  
(飯田市)



連絡先 〒399510244  
飯田市山本3378  
TEL 026512512001  
代表者 元村 尚治(もとむらりょうじ)

定期公演日 ◆ 秋季祭典毎年9月末の土曜日  
土曜日：宵祭り19時～22時頃迄  
日曜日：例祭15時より

定期公演の場所 ◆ 山本七久里神社にて  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない

練習時期 ◆ 各平で練習を行う。約1週間前に神社にて統一練習を行います。

練習内容 ◆ 榎の振り方、要点、旗振りの練習など約166名参加

その他 ◆ 最寄バス停 山本自治振興センター前  
駐車場あり(200台)

**【芸能の由来】** 7つの集落(平)の氏子が神前に「御酒樽」を奉納する際、草相撲力士が垂紙を巻いた樽を高く掲げ力を競い合ったことが始まりとされています。呼び方は樽振りと榎振りと両方有りましたが、7、8年前に榎振りと統一しています。

**【見どころ】** 夕刻7時に当番平が名旗を先頭に練り込みます。社殿前で榎振りを奉納し、神前でお祓いを受け、境内で神前煙火を奉納します。また、この際には、火の粉の下で榎を振ります。この一連の奉納を20分毎に7つの平が順次行います。

その後、7人の榎振りと旗振り、玉箱が第三国煙火の下で火の粉を浴びながら榎振りを行います。終りに連合仕掛花火の下で榎振りを7人が横一列になつて行います。

見どころは、社殿前の榎振り神前煙火、大三国、連合花火の下で、火の粉を浴びて榎を振るところです。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 今年の氏子数は768戸で、年々少なくなっています。

10年先、20年先それ以上の先を考えて保育園児への祭り参加を呼び掛けています。また、この目的とは別に幼い頃の思い出が豊かな人生と人間性を育むとの考え方からも祭り参加を呼び掛けています。

まつりそうぞうしゅうだん ゆいしゅうだいち  
まつり創造集団 結衆大地  
(高森町)



連絡先 〒39913106  
高森町大島山69  
TEL 026513517588  
代表者 佐々木清(ささききよし)

定期公演日 ◆ 毎年12月31日23時～1月1日午前1時

定期公演の場所 ◆ 高森町大島山瑠璃寺、日吉神社

定期公演以外の公演 ◆ イベントの企画と上演、イベント出演依頼に上演する

練習時期 ◆ 毎週金曜日19時30分から

練習内容 ◆ 肩慣らしの基礎打ち、パターン毎の練習、改善点の確認

下伊那をはじめ、全国の民俗芸能の学習

その他 ◆ JR飯田線市田駅、駐車場あり(10台)

**【芸能の由来】** 昭和62年町制施行30周年を記念し、高森町を代表する民俗芸能を創造しようという機運が高まり、策定委員会が設置され検討されました。その中で和太鼓と民謡が提案されました。このうち太鼓曲は伊那市の歌舞劇団「田楽座」に制作を委託し曲が完成しました。

当時町内には太鼓グループが1団体あるだけでしたが、結衆大地の前身であるこの団体が演奏をし続けています。

**【見どころ】** 高森太鼓を軸に「結の心 次代に」とテーマをもつて、国内様々の伝統芸能をアレンジし演奏しています。

高森太鼓そのものの曲構成は、1番古き悠久の伊那谷、高森の風景、天竜川の川下りなど自然と風物を描写しています。

2番で度々この地を襲った大雨による洪水の人的物的被害の様と打ちひしがれる人々の様を、3番で復興に立ち上がり、やがて未来が見え、新しい高森町の姿を喜び、子供へと繋いでいく様子を表しています。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** メンバーは現在7人で、イベント依頼に応え演奏したり、定期公演に向け皆で意見を出し合い演目を決めていきます。

毎週1回金曜日に町民体育館第2研修室で練習しています。このうち第3金曜日は一般向けの「高森太鼓講座」を開講しています。

まずはこの講座に参加して、表現することの楽しさ、会員同士の伝統芸能、民俗芸能の知識交換をしてみてください。

毎年、高森中学校の総合の時間で「高森太鼓」の指導に会員があたっています。

よしだくでんとうげいのうぼぞんかい  
吉田区伝統芸能保存会  
(高森町)



連絡先 〒39913102  
高森町吉田46712  
TEL 026513512660  
高森町公民館吉田支館  
細江 昭(ほそえあきら)

定期公演日 ◆ 吉田神社秋季祭典 毎年3月の最終土・日曜日

定期公演の場所 ◆ 高森町吉田神社

定期公演以外の公演 ◆ 吉田神社秋季祭典 毎年9月の最終日曜日

練習時期 ◆ 祭典の3週間前より

練習内容 ◆ 祭典の3週間前より各都ごとに夜練習を行なっている

その他 ◆ JR飯田線市田駅  
駐車場あり(100台)

**【芸能の由来】** 吉田神社の創建は戦国時代の前期かそれ以前です。獅子舞の起りは定かではありませんが1740年より前とみられています。獅子舞に天狗が登場するようになったのは、江戸時代末頃とされています。また、囃子の奉納は1872年、雅楽奉納は1919年から始まったと資料には記載されています。

その後雅楽に合わせて浦安の舞が奉納されるようになりました。

**【見どころ】** 吉田神社秋季祭典の本祭(日曜日)の午後より、稚児行列を先頭に、飾り付けられた囃子の屋台の中で太鼓、笛、鼓、三味線などを奏でながら巡行し、獅子と合流し神社まで練り歩きます。

神社では祭事の中に浦安の舞の奉納があり、雅楽の生演奏に合わせて舞姫たちが舞いを奉納します。

神事終了後は、境内において囃子の演奏と、数年前から行われるようになった子供たちによる獅子舞があり、その後獅子と天狗による勇壮な舞が始まります。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 伝統ある行事を継続していくために多くの人の参加をお願いします。

にいのこうげんぼんおどりのかい  
新野高原盆踊りの会  
(阿南町)



連絡先 〒39911612  
阿南町新野149511  
TEL 026012412001  
代表者 新野出張所盆踊りの会事務局

定期公演日 ◆ 毎年8月14日、15日、16日(21時～翌朝7時頃)

定期公演の場所 ◆ 阿南町新野東町(本町通り)

定期公演以外の公演 ◆ 行っていない

練習内容 ◆ 自分たちの練習は行いませんが、7月に2回郷土芸能こども教室の中で小3以上の地元の子ども達に踊りを教え、こども音頭取りとして盆踊りに参加してもらっています。

JR飯田線温田駅、最寄バス停 新野支所前  
仮眠場所、駐車場あり(30台)  
音頭取りは新野高原盆踊りの会総会で承認が必要

**【芸能の由来】** 瑞光院建立の折、入仏式に三州振草下田の人々が来て踊った「おさま」を村の人たちが習ったのが始まりとも、それ以前から盆踊りは踊られていたともいわれています。

**【見どころ】** 8月14日、15日、16日の21時から翌朝まで商店が並ぶ町道に櫓を建て、その周りを囲み、楽器を一切使わず音頭取りの音頭出しと踊り子の返す唄だけで踊られます。

踊りの種類は扇子を使うものが4つ、手踊りが3つで、このなかの「能登」は、3日間のうち最後の日の朝方行われる神送りのときのみ踊られています。また、8月第4土曜日は「うら盆」と称して盆踊りを行います。この起源は諸説ありますが、盆の客人が帰った後、村人たちがゆっくり踊りを楽しむために始まったといわれています。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 新野高原盆踊りの会は盆踊りの音頭取り、地区の公民館役員で構成されています。会では、盆踊りの準備片付け等盆踊りの一連の行事がなくなると行えるよう取り組んでいます。盆踊りの時間帯は誰でも輪に入って踊る事ができます。気軽に会場に足を運んでいただければと思います。

準備片付け等に参加された方はボランティアも募集していますので事務局(阿南町役場新野出張所 TEL 026012412001)へお問い合わせください。

にいのゆきまつりほぞんかい  
**新野雪祭り保存会**  
(阿南町)



連絡先 〒39911612  
阿南町新野279912  
TEL 026012713010  
代表者 勝野喜代始(かつのきよし)

定期公演日 ◆ 毎年1月13日6時から1月15日9時まで  
定期公演の場所 ◆ 諏訪神社及び伊豆神社  
定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
練習時期 ◆ 会員で協議して実施  
練習内容 ◆ 舞と笛・太鼓の練習  
その他 ◆ JR飯田線温田駅、最寄バス停 農村文化伝承センター  
仮眠場所あり  
地区外からの参加が原則として出来ない  
(新野の住民(氏子)であること)

**【芸能の由来】** 1265年頃、伊豆の国生まれの伊東氏が、春日大社で神官として仕えた経験を基に、定着する際に春日大社で行われていた神事を伝えました。1400年頃、伊勢の国から、関氏により、伊勢で行われていた修正会行事が伝わり、神仏混交の新野の雪祭りとして発展させて、今日に到っています。

**【見どころ】** 1月13日午前6時に伊豆神社を出発した後、諏訪神社において役の決定やお滝入りが行われます。翌14日の16時頃再び伊豆神社に場所を移し、神楽殿の祭等の祭が夜通し行われます。徹夜の祭りですが、各祭り共通して幽厳な神楽の世界が魅力です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 雪祭りは神々が人間の社会に場所を移して楽しむ祭りと言われており、祭りに奉仕する住民は「精進」を心がけ、生活の励みとしています。社会人となった若い人たちが、この祭りの貴さを強く意識して、新勢力として奉仕に加わっています。舞・笛等の後継者育成にも、「祭り愛好会」という組織を作り、実技指導を行う等、今後に活かす地道な活動を行っています。

とくさしほぞんかい  
**木賊獅子保存会**  
(阿智村)



連絡先 〒39510304  
阿智村智里3789  
TEL 026514412190  
事務局

定期公演日 ◆ 神坂神社の例祭  
1月1日0時から、4月10日、10月第1土曜日  
定期公演の場所 ◆ 神坂神社  
定期公演以外の公演 ◆ 阿智祭11月 阿智村中央公民館  
地区祭10月第1日曜日 智里西体育館  
練習時期 ◆ 毎週第3金曜日

**【芸能の由来】** 三河地方から木曾を経て伝えられたといわれています。当初は「集落の伝承のものでした」。後継者不足により昭和30年頃から中断していましたが、昭和48年に智里西地区に呼びかけ復活しました。平成12年に地域の歴史・文化の伝承事業として小学生を対象に獅子舞を教え、子供獅子が誕生しました。平成17年には村の無形文化財指定を受けています。

**【見どころ】** 役物舞いは「葛の葉」を上演しています。自分が狐であることがばれてしまい、愛しい我が子との別れの場面を演じます。母親の子供への情愛を語り、唄を聞きながらしっかり見て頂きたいです。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 人口が減少し少子高齢化が進むなか保存活動は大変であります。特に子供の減少は著しく舞い子、笛、太鼓、唄を毎年上演できるまでにすることは大変であります。子ども獅子を経験した高校生が協力してくれることが増えてきています。

わせだにんぎょうほぞんかい  
**早稲田人形保存会**  
(阿南町)



連絡先 〒39911504  
阿南町西条  
TEL 026012212480  
代表者 伊藤安永(いとうやすなが)

定期公演日 ◆ 毎年8月第4日曜日14時から  
定期公演の場所 ◆ 早稲田神社人形舞台  
定期公演以外の公演 ◆ 特に決まっていない  
練習時期 ◆ 4月より毎週土曜日19時30分  
練習内容 ◆ 毎年新しい上演外題により練習する  
その他 ◆ JR飯田線温田駅、最寄バス停 早稲田

**【芸能の由来】** 開始時期は定かではありませんが、文政年間(1818年〜29年)には活発な活動を行っていた記録があります。大阪の人形遣いの指導を受けて、明治後半から大正時代にかけて最盛期を迎えましたが、その後衰退してしまいました。戦後に保存会が結成されて現在に至っています。

**【見どころ】** 公演は神社祭典と4座発表会を定例とする。毎年新しい外題に取組んでいるのが見どころです。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 外題の背景となる歴史を学びながら練習に取り組んでいます。現代の文体ではないですが、勉強になります。20代の若者が2人参加してくれました。会員が少なく、2体くらいの人形を操って小さな外題を演じています。多くの方のご参加をお待ちしています。

なかぜきぎしおどりほぞんかい  
**中関義士踊り保存会**  
(阿智村)



連絡先 〒39510301  
阿智村春日2652  
TEL 026514313269  
代表者 原典之(はらのりゆき)

定期公演日 ◆ 定期公演なし  
定期公演以外の公演 ◆ 中関区民祭 毎年9月中旬  
JA阿智支所ホール  
阿智祭 毎年11月上旬  
阿智村中央公民館ホール(子どものみ)  
練習時期 ◆ 公演前1週間くらい  
練習内容 ◆ 小学4年生等初心者に4日、全員で3〜4日。2人1組となり同じ仕草の踊り  
(三味線と唄に合わせて踊る)  
その他 ◆ 地区内居住者

**【芸能の由来】** 地区の青年が豊橋市の葉種問屋に奉公に行きました。生来芸好きだったこの青年は、葉の商いの道中、旅の役者一座と同行し芸を覚え、帰省の度に弟や若者たちに教えました。この内の二つが義士踊りでした。以後、若者たちによって踊り継がれてきています。

**【見どころ】** 赤穂義士47人が吉良邸に討ち入り、上野介の首を挙げ、泉岳寺に眠る主君(浅野内匠頭)の墓前に供え報告し、切腹した忠臣蔵。その功績がのちの世まで語り継がれている様を踊ります。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 中関区自治会の伝統芸能として昭和47年全区民が会員として保存会を結成し、自治会からの助成を受け継承に取り組んでいます。平成8年には、後継者育成、青少年健全育成の意を込め、子ども義士踊りを結成し、地区が盛り上がっています。子どもが一生懸命取り組んでくれており、地域の盛り上がりにつながっています。

しもじょうむらやまだこうちしんめいしやおはやししほぞんかい  
**下條村山田河内神社**  
**お囃子獅子保存会**  
 (下條村)



連絡先 〒39912101  
 下條村睦沢771012  
 TEL 026013213297  
 代表者 小池和彦(こいけかずひこ)

定期公演日 ◆ 毎年4月10日、7月20日頃、10月10日  
 定期公演の場所 ◆ 山田河内神社  
 定期公演以外の公演 ◆ 1月2日、地区内の巡回  
 練習時期 ◆ 月1〜2回(土曜日が多い)  
 練習内容 ◆ お囃子演奏の練習、獅子舞の練習  
 その他 ◆ JR飯田線唐笠駅、最寄バス亭 山田河内  
 駐車場あり(20台)  
 加入金5,000円(ツピの一部負担金)を  
 ご負担頂いています。

**【芸能の由来】** お囃子：天保年間に三河地方から川路に伝わったものを土地の人が伝授を受けこの地に広まったといわれる。これに地元民が改良を加え、現在の様式になりました。  
 獅子舞：大島山瑠璃寺が起源とされ、明治の頃より地区内で舞われ始めたといわれています。

**【見どころ】** 最初に全6曲のお囃し(祇園囃子)を行います。その後、獅子舞を行います。先導には「へいばい」と呼ばれるひょうとこ面の役者がユーモラスに獅子の回りを舞います。獅子舞は優雅さが身上的の舞です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 月1〜2回の定期練習を行っています。会員の高齢化が進んでおり、若い会員の参加を求めています。お練り祭りへの参加を通じて、その魅力に惹かれ2名の若者が新たに加入されました。若者の意向に添った魅力ある活動を行いますので若い皆さんからベテランの皆さんまで一緒に活動しましょう。また、下條中学校にて皆さんに獅子舞、お囃子を披露させてもらい、好評を博しました。

おおこうちいけだいじんじゃれいさい  
**大河内池大神社例祭**  
 (天龍村)



連絡先 〒39911201  
 天龍村大河内  
 TEL 026013213297  
 氏子 後藤泰計(ごとうやすかず)

定期公演日 ◆ 毎年1月5日13時から翌日朝4時頃  
 定期公演の場所 ◆ 大河内池大神社  
 定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
 練習時期 ◆ 毎年12月24日から28日の5日間19時位から  
 練習内容 ◆ 順の舞、扇の三ツ舞、剣の三ツ舞、扇の四ツ舞、  
 剣の四ツ舞、しずめの舞  
 その他 ◆ JR飯田線平岡駅、最寄バス亭 大河内  
 仮眠場所、駐車場あり(10台)

**【芸能の由来】** 神に湯を献じ、その神の湯を人々が浴びれば罪や穢れが払われ、魂が再生されるといって湯立神楽を中心に行われます。多くの霜月神楽が面をつけて演舞するのに対し、池大神社例祭では素面による舞が行われることが特徴です。

**【見どころ】** 翌朝まで湯立神楽が神楽殿を舞台に窯を囲んで行われる舞は、「順の舞」に始まり、「扇の三ツ舞」、「剣の三ツ舞」を行い、「扇の四ツ舞」では、釜の湯をかけ、観客者と一体となります。続いて「剣の四ツ舞」を行い、クライマックスには「鎮めの舞」、竜王の湯立て終了です。

**【保存会の雰囲気や練習の内容】** 毎年12月24日から12月28日の5日間、大河内多目的集会所にて夜19時から24時位まで氏子、宮人の人達が舞の練習を行います。途中中休みで夜食も食べます。他県から興味がある方が来ても、一言いってもらえれば雰囲気になれると思います。5日間練習を行いますので、寝泊りの準備をして来ていただければ、泊まります。

大河内から10分ほど下った所に温泉もありますのでよいかと思います。

おおこうちしかおいぎょうじ  
**大河内鹿追い行事**  
 (天龍村)



連絡先 〒39911201  
 天龍村大河内  
 TEL 026013213297  
 氏子 後藤泰計(ごとうやすかず)

定期公演日 ◆ 旧暦3月3日  
 定期公演の場所 ◆ 大河内池大神社  
 定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
 その他 ◆ JR飯田線平岡駅、最寄バス亭 大河内  
 仮眠場所、駐車場あり(10台)

**【芸能の由来】** 起源は江戸時代に遡るといわれていますが、定かではありません。せん。田畑を荒らす鹿を追い、弓矢で射る行事で豊年祈願のお祭りです。大河内池大神社の春祭りのあとに行われます。鹿追い行事の後には、神送りが行われ、これは各家の疫病神を送りだすことが目的とされています。

**【見どころ】** 旧3月3日の13時から池大神社の境内にてワラで作った鹿2頭をかざり、拜殿前に狩人役(ねぎ)、前庭の鹿を挟んで勢子2人が向き合うと祭りが始まります。狩人の指示で、勢子は棒を持ち、3回目で鹿を追い出し、狩人がはなす一矢で射とめ、この様子を見ていた子供たちが鹿の奪い合をし、腹の中の小豆飯を食べます。

かけおどり  
**掛踊り**  
 (天龍村)



連絡先 〒39911201  
 天龍村大河内  
 TEL 026013213297  
 氏子 後藤泰計(ごとうやすかず)

定期公演日 ◆ 毎年8月14日、8月16日  
 定期公演の場所 ◆ 大河内多目的集会所  
 定期公演以外の公演 ◆ 行っていない  
 練習時期 ◆ 7月1日、7月6日20時から  
 練習内容 ◆ 掛踊り  
 その他 ◆ JR飯田線平岡駅、最寄バス亭 大河内  
 仮眠場所、駐車場あり(10台)

**【芸能の由来】** 新益宅を供養して踊り歩くなど、もともとも古い形を伝えているかけ踊りです。戦中から昭和20年代中頃まで中断し、その後復活しましたが昭和40年代も人手不足で行えませんでした。昭和48年に「大河内の民俗」編集の為の民俗芸能の調査が行われたことを機会に復活しました。復活にあたっては、念仏踊りが伝わる阿南町和合まで習いにいったといわれています。

**【見どころ】** 7月1日、6日の2日間夜、掛踊りと念佛の練習を行い、新益の家がある時には、その家で申し出があれば8月14日の8時頃に集まって新益の家に行つて、掛踊りと念佛を行います。新益の家が無い場合は、お墓で行います。